

ChatGPT 4o

共有する

Hi

あなた:

【松尾豊教授に聞く、生成 AI の「次の 10 年】.docx

ドキュメント

話し手の熱意とか感情が伝わるような要約を作成してください。

ChatGPT:

ChatGPT

【松尾豊教授に聞く、生成 AI の「次の 10 年】要約

松尾豊教授の情熱的な語り口が、生成 AI の未来や課題に対する深い洞察を引き立てています。以下、彼の思いが特に印象的に伝わる部分を要約しました。

1. 生成 AI と次のステップ

松尾教授は「AI を崇めるのではなく舐めるべき」とし、技術を冷静かつ批判的に扱う姿勢が重要だと強調しました。AI は万能ではなく、データを学習して動いているだけだと述べ、「これなら自分も工夫できる」という自信を持つことが革新を促すと語ります。

2. 10 年間での大きな進化と課題

AI の進化について、特に LLM（大規模言語モデル）の急速な成長に驚きつつも、単にスケールを拡大するだけでは精度向上に限界があると指摘。「質の高いデータ」の重要性を訴えつつ、次の大きな課題は AI と人間の関係性だと述べました。

3. ロボティクスへの期待

「物理空間での AI の適用が進む」と述べ、ロボットが未来予測を動画生成などで行い、その結果を基に行動を最適化する新たなフェーズに触れました。この進化により、ロボットの知能がさらに発展し、人間らしい動作を模倣できると期待を寄せています。

4. 日本の戦略と挑戦

松尾教授は日本の立場について、「まずは自らの弱点を認識することが重要」と語り、現在の状況を「絶望からの出発」と表現しました。しかし、そこから具体的な行動、例えば GPU 購入やデータセット整備、プロンプトエンジニアリングなどを進めることで突破口が見えると強調しています。

5. 教育の未来

教育の在り方に関しては、「逆算思考」が鍵であると述べ、出口（社会に必要なスキル）を意識した設計が重要だと語ります。特に生成 AI の進化により、多様な才能が

社会で発揮される可能性を感じていると述べました。

6. 「呪いを解く」大切さ

技術や一流とされるものを過剰に崇めないことの重要性を強調。「こんなものか」と実感することでコンプレックスが解消され、自信を持てるようになると述べました。これは、技術革新や創造性の発揮につながる重要なプロセスです。

松尾教授のメッセージには、「日本が抱える課題をどう突破するか」という強い意志と、「技術や教育が未来をどのように形作るか」への希望が込められています。彼の語りには、時に厳しい現実認識を織り交ぜながらも、「絶望から挑戦へ」というポジティブなエネルギーが感じられます。